

五年生の復習

名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点

1 各文にまちがいの漢字が二つあります。直して文全部を書きましよう。

月末から合宿だ。お天気が記になる。

月末から合宿だ。お天気が**気**になる。

カヌー乗り体験は、想像するだけで楽しい。

カヌー乗り体験は、**想**像するだけで楽しい。

みんな多いに期待している。

みんな**大**いに期待している。



2 次の文の主語には――を、述語には――を引きましょう。

主語 述語 各5 30

元日は、雲一つない よい お天気でした。

わたしは、近くの 神社へ 初もうてに 行きました。

高学年に なったので、お年玉が、去年より 二千元 多くなりました。



3 を尊敬語か、けんじよう語に直します。 から選んで書きましよう。

遠方から、お客様が 来る。

長野のおばさんから、りんこを もらう。

明日、母が学校へ行く 予定です。

「あいさつは大切だ。」と、先生はいつも 言う。

うかがう おっしゃる いただく いらっしゃる 申す



帰り道 ①

17-33

名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点

1 絵に合う言葉を から選んで、書きましよう。

各10 30

(こずえ) の 葉も落ちた。

葉も落ちた。

(木もれ日) が 差しこむ。

差しこむ。

(みぞおち) の 辺りが変だ。

辺りが変だ。

木かげ 木もれ日 木もれ日 木もれ日 木もれ日 木もれ日 木もれ日 木もれ日 木もれ日 木もれ日



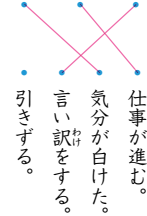
2 下に続く言葉を でつなぎましよう。

各10 30

しどろもどろになって

声をかけ合うと、テンポよく

ぼくは、友だちの気のない返事に



3 () に合う言葉を から選んで書きましよう。

各10 40

しんとしたクラスの (空気) を、田中君の一言がきやぶった。

「今だ。」と思ってぼくは、 (勇氣) をふりしぼって手を挙げた。

あつと言う間に、 (天気) 雨が通り過ぎて行った。

この季節、高原はもう秋の (気配) がある。

勇氣 元氣 空氣 天氣 氣配



強める言葉の巻

名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点

から、 絵に合う言葉を 見つけるんだね。

妹は、お手伝いを 全く しない。



水遊びを、 大いに 楽しもう。



あの政治家は、 いかにも 自分で 見てきたかのように話す。



こつも長雨がずっと、 さすがに うんざりだ。



さすがに	多い	いかにも
すっかり	全く	大いに

このページは辞書を使うのもありだよ。



言いかえ言葉の巻

名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点

的に命中する



予報が的中する



の部分を 共通した 言葉に言い かえるんだね。

当たる

日がしずむ



味が悪くなる



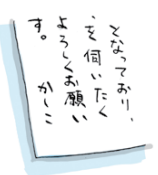
よこれがとれる



ひもをつなぐ



文をしめくくる



帯をしめる



結び

帰り道 ②

17~33

名前 () 年 組 () 番 () 月 () 日 () 点 ()

1 () に合う言葉を □ から選んで書きましょう。

- 時間を守ることにについて、母は () (ことさら) () きびしい。
- 台所の洗い物を、母は () (またたく間に) 片づける。
- 好きだからといって、 () (むやみに) () あまい物を食べすぎない。
- 時間はかかったが、 () (どうやら) () 家族の意見がまとまった。
- またたく間に () (むやみに) () ことさら () どうやら () はてしなく

2 続く言葉を——でつなぎましょう。

- 強い風が去って、雨音も………
- 母にしかれるところを見られて
- 昔も今も人間の持つ夢は、………
- 声にならないため息が、口から

3 の表現の工夫と似ている文に○をつけましょう。

- () ぼくは、会話のキャッチボールは苦手だ。相手の言葉を受け止めて、うまく話を投げ返せないんだ。だから、母は、ぼくの会話を「ピンポン球の壁打ち」なんて言うんだ。——
- () 外に出ると、冷たい夜風がぼくに話しかけてきた。
- () (○) じゃ口のこわれた水道みたいに、姉の話が止まらない。
- () うっかり忘れてしまっていた、大切な約束を。

漢字の形と音・意味

36~37

名前 () 年 組 () 番 () 月 () 日 () 点 ()

1 同じ音読みになる漢字を、() に書きましょう。

- ケイ 円の直 () (徑) を測る。 初めて () (経) 験する。 動きが () (軽) 快だ。
- セイ 作文を () (清) 書する。 今日は、快 () (晴) だ。 強い () (精) 神力をもつ。

2 空らんにあう言葉や記号を書きましよう。

漢字の部分	部分の名前	部分の意味
禾	うかんむり	ア 体に関係する
小	にくづき	イ 家や屋根に関係する
月	りっしんべん	ウ 農作物に関係する
禾	のぎへん	エ 心の動きなどに関係する
		オ 火に関係する

3 次の文に合う漢字を、□ から選んで書きましよう。

- あふみ切りは、点 () (検) 中だ。
- やっと、体力が回 () (復) した。
- バトカーや () (救) 急車が来た。
- 周りの人たちが、() (側) 面から助けた。

思わず使いたくなる言葉の巻

活用

このページは、辞書や使ったのもありだよ。



悪い予感がする
虫 () が知らせる



おとなしいふりをする
ねこ () をかじる



気温がどんどん上がる
うなぎ () のぼり



きりつと気を引きしめる
えり () を正す



相手と気が合う
馬 () が合う



今までの努力がむだになる
水 () のあわ



言行一致

意味 言った事と行動が同じであること。



四字の熟語の巻

「言」のつく四字熟語の巻

□ に漢字を入れて、四字熟語を完成させるんだね。

言語道断

意味 言葉で表せないほどひどいこと。



思い出そう
「主語・述語」

名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点

1 次の文の主語には——を、述語には——を引きましよう。

今日の星は、美しい。

兄は 中学生だ。

父が 本を 読む。

これも 姉の 本だ。

昨日、ぼくは サッカーを した。



2 次の文の主語と述語を書きましよう。
(主語がない場合は×を書きましよう。)

主語 兄も 野球が 好きだ。

主語 本当に きれいだね、あの山は。

主語 あのとここに 着いた。

主語 君こそ ぼくの 親友だ。

主語 × 着いた

主語 君こそ 親友だ

主語 親友だ

覚えて
いるかな!



◆主語

文の中で、「だれが(は)」「何が(は)」を表す言葉のこと。

それ以外に、「くも」「くこそ」「くだつて」なども主語になります。

◆述語

「どうする」「どんなだ」「何だ」などを表す言葉のこと。

ふつう、その文の最後にあります。

◎主語の見つけ方
まず、述語を見つけてから、それに対応する主語を考えよう。

◎主語がない場合
例 あの本は、図書館に返した。
この文の主語は、「本」ではありません。「返した」のはだれかを考えると、「だれか」に当たる主語がないですね。

このように、主語が省略される場合があります。



名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点

1 文の主語を()に、述語を()に書きましよう。
(主語がない場合は×を書きましよう。)

夏休みには いつも 話題の 映画が 上映される。

(映画が) (上映される)

やっと 完成した、夏休みの 宿題が。

(宿題が) (完成した)

実は 少し 兄に 助けてもらった。

(×) (助けてもらった)



2 文の形をア～エから選んで、記号を書きましよう。

弟は、あわてんぼうだ。

兄が友だちと野球をする。

姉は、昨年から京都にいる。

父は、地元の銀行員だ。

ア だれが(は) どうする。

イ だれが(は) どんなだ。

ウ だれが(は) ある(いる)。



話し言葉と書き言葉

58-59

名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点

1 次の説明は、ア書き言葉 イ話し言葉のどちらですか。

自分の思いを、声の調子や表情でも伝えられる。

記録として、後世に残すことができる。

時間にはばられず、筋道を追って伝えられる。

その場に応じて、表現の調子を変えることができる。

ア イ ア イ



2 の言葉を、書き言葉と話し言葉に分けて () に書きましよう。
(※ 順不同可)

書き言葉 () 少しも () やはり

話し言葉 () ちつとも () やつぱり

ちつとも 少しも やつぱり やはり



3 () に合う漢字を書きましよう。

書き言葉では、だれが読んでも分かるように、きょうつうで書きます。そして、

構成 や 語順 を整えます。

書き言葉は、たいてい書き直せないの、

誤解 をあたえないように誤字に注意します。



ひらめき道場

言葉の先祖様

「付け焼き刃」の編



毎度、ばかばかしいお笑い……「夜じまの付け焼き刃」なんてのは、はげやすいとか申しまして……



文の組み立て

64-65

名前 () 年 組 番 () 月 日 点

M6 9-1-9-9

1 次の文の主語には——を、述語には——を引きましょう。

天気予報では、今日は 雨だ。

やはり、午後から 雨が 降り出した。

明日には、お天気は よくなるらしい。

2 次の文の「中心となる主語と述語」を書きましょう。

母が作ったプリンを、父はおいしそうに食べた。

「母のプリンは特別だ。」と妹は言う。



3 の文を、内容を変えずに二つの文にしましょう。



例は 弟が植えたひまわりが、ずいぶん大きくなった。

② そのひまわりがずいぶん大きくなった。



※各15点

ぼくは、友だちから借りた本を夢中になって読んだ。

① ぼくは、友だちから本を借りた。

② ぼくは、その本を夢中になって読んだ。

③ ぼくが夢中になった本は、ぼう険ものです。



私たちにできること

70-75

名前 () 年 組 番 () 月 日 点

M6 10-1-10-10

1 () に漢字や、——の読みがなを書きましょう。

提案の () 意図 () 内容。

効果 () 具体的 () に書く。

2 正しい段落のつけ方の文章に○をつけましょう。

外は良いお天気だ。しかし、ひろし君は、お母さんに言われる前に宿題をしよう、机にノートを広げました。ふと、急に外が気になって窓を開けました。明君の声だ。

外は良いお天気だ。しかし、ひろし君は、お母さんに言われる前に宿題をしよう、机にノートを広げました。ふと、急に外が気になって窓を開けました。明君の声だ。

外は良いお天気だ。しかし、ひろし君は、お母さんに言われる前に宿題をしよう、机にノートを広げました。ふと、急に外が気になって窓を開けました。明君の声だ。

※各10点

3 次の文は、田中君の提案です。

に合う文章を——で結びましょう。

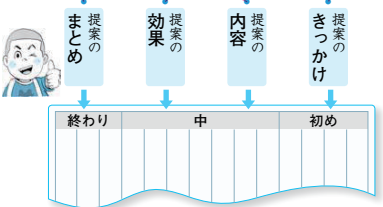
※各10点

体育が終わって、教室にもどつてくると明かりがつけ放題になっています。そして、初めてむだに気付くのです。そんな光景をよく見ます。そこで、次の事を考えませんか。

明かりのエネルギーを作るのに多くの石油や石炭が燃やされて作られます。このとき地球温暖化の原因が、温暖化ガスが減らすことにつながります。

むだを無くするために具体的には、消灯の時間割をクラスで作るのです。そうすると音楽、体育、野外活動、園工、全校集会には、教室の明かりを消す習慣がでると思うのです。

まず、自分たちのクラスから消灯の時間割を作つて、そして六年生、全体に広げていきたいと思います。



ややこしい言い方の巻

名前



自分の不注意と認めざるを得ない。

それに似た事件が、かつてない事もない。

弟は、安易な道を選ばない。

兄は、不まじめな性格では決してない。

これでは、誠意ある回答として認められるものでない。



M6 11-9

大人だって知らない言葉の巻

「恩送り」の編



M6 11-10

思い出そう「敬語」

名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点

1 —の意味に○をつけましょう。

お客様がめし上がる。

(食べる) 来る

母がうかがう。

(する) 行く

お客様が校内をこらんなる。

(もらう) 見る

父が学校に参ります。

(行く) 弱る

意見を申し上げる。

(言う) くれる

2 が尊敬語の場合は○を、けんじよう語の場合は△を書きましよう。

(○) 先生がおっしゃる。

(△) おみやげをいただく。

(△) 手紙を拝見する。

(○) お客様がお帰りになる。

(△) 不明な点を先生にうかがう。

(○) あの方はどなたですか。



◆敬語

敬語は、話す相手や話に出てくる人を敬う気持ちを表すときに使う言葉です。

敬語には、「尊敬語」、「けんじよう語」、「ていねい語」があります。

尊敬語

相手や話題になっている人を、敬うときの言葉です。

(自分や自分の家族などの動作を表すときには使いません)

言う ↓ おっしゃる

食べる ↓ めし上がる

来る ↓ いらっしゃる

けんじよう語

自分や身内(親類)の人のことを、へりくだって言うことによつて、相手への敬意を表します。

言う ↓ 申す

行く ↓ うかがう、参る

ていねい語

「です」「ます」などを使って、ていねいな言い方で、敬意を表します。

森へ①

83-91

名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点

1 —の言葉の意味に合うものに○をつけましよう。

気が遠くなる。

(○) ぼんやりして、わけが分からなくなる。

申し入れをこぼむ。

(○) ことわる。

木々人間のように表現しているところを、()に書きましよう。

木々が、ぼくを見つめているような気がする。

() 見つめている

大木は、足で立つように根を生やしている。

() 足で立つ

3 ()に合う言葉を から選んで書きましよう。

父が、() やがて () 帰ってくる時間だ。

ときどき兄は、父親の () ように () えらそうに話す。

弟は、() 一つのまにか () 少年野球のキャプテンになっていた。

おばさんの子、() つまり () ぼくのいとこは、まだ五才だ。

つまり ように やがて まるで 一つのまにか

4 「不意に」という言葉を使って、短い文を作りましよう。

人ごみの中で、後ろから不意に声をかけられた。

例文を少し直して、文にしてもいいよ。



1 —の敬語の種類を、 から選んで記号で書きましよう。

先生が、合宿についての話をされる。

(イ) わたしが、駅までむかえに行きます。

(ウ) 今回は、父がそちらに参ります。

ア ていねい語 イ 尊敬語 ウ けんじよう語

2 を敬語に変えます。適切なものを から選んで書きましよう。

来る ↓ 先生が、わたしの家に () いらっしゃる。

もらう ↓ おじさんから、お年玉を () いただく。

問う ↓ 先生の当日の予定を () うかがう。

さし上げる 申し上げる いただく いらっしゃる うかがう

3 ア、イの言葉を、適切な敬語に直ましよう。

「先日(ア)は、本当に助かりました。」

と、父が言っておりました。

これは父からのほんの気持ちです。

どうぞ、食べてください。

ア () 申しておりました

イ () めし上がってください (おめし上がりください)



このページは辞書を使うのもありだよ。



名前 年 組 番 月 日 点

1 () に合う言葉を () から選んで書きましょう。

- 台風が通り過ぎ、風が () しいに () おさまってきた。
- 人は、ねてるときも () 絶えず () 息をしている。
- となりの部屋から () かすかな () 寝息が聞こえる。
- 後ろから人の () 気配 () がしてふり向く。

かすかな しいに 気配 絶えず 光景



2 問いかけるような表現をしている文を、二つ選んで○をつけましょう。

- () こんな時間に、いったいだれが来たのだろう。
- () 彼のふだんの努力は、きつと実を結ぶだろう。
- () なぜ、あの時あんなことを言ってしまったのだろう。
- () あの家には、きつとお年よりが住んでいるのだろう。
- () に合う言葉を () から選んで書きましょう。
- 近くで鳥の鳴き声がします。 () が () 、辺りには姿が見えません。
- そのときバサッ () と () 、一羽の鳥が飛び立った。
- その道は険しく細い。 () そう () 、そこは熊の道だったのです。
- どんどん強まる雨風が、 () いや () 、かみなりまでも鳴るのです。



と が まだ いや そう

接続詞

名前 年 組 番 月 日 点

1 次の文の () に合う言葉を、 () から選んで書きましょう。

- 父は厳しい。 () だから () 、食事中はテレビをつけない。
- おふろの () けれども () 、やさしい一面もある。
- そうじをした。 () そのうえ () 、トイレのそうじもした。
- () ところでも () 、友だちもしているのだろうか。
- () それにしても () 、ていねいにすると時間がかかる。
- () けれども () 、そのうえ () それにしても () だから



2 () の言葉をつ使い、次の二文を意味を変えずに一文にしましょう。

私は、絵が得意だ。 し が から

私は、絵は得意だが、習字は苦手だ。



3 () の言葉を使い、 () を意味を変えずに二つの文に直しましょう。

もう少しテレビを見たいが、もうねる時間だ。

でも、もう少しテレビを見たい。

手を洗って、給食の準備をした。

すると でも そして だから

「日本の言葉広がる」の編



「響きをまねるのじゃ」の編



M6201-15-15

各 6 (30)

A vibrant, cartoon-style illustration of a fairground. On the left, a large Ferris wheel with many passenger cars is visible. In the center, there's a carousel with a blue and white striped canopy. To the right, a roller coaster with a blue track and white cars is shown. The background is filled with various fairground elements like smaller rides, tents, and people, all in a bright, cheerful color palette.

各5
(20)

各
10
(
50

M6②1-16-16

各
10
(
30

各5(30)

各
10
(
40

明暗 頂上 古都 決心

各別

A cartoon illustration of a girl with pigtails, smiling and making peace signs with both hands.

男子、
だれか、
やつてゝ。

いつも
おれらじゃん。
女子やれよ！

わたし、家
遠いも〜ん。

意味

自分は何もしないで、
他人の力にたよろうとすること。

意味

ちよつとした一つ一つのしぐさ。

このページは、辞書を使うのもありだよ

物・記念・天然
↓
天然記念物

不無非末の
どれかを選んで
熟語を作るんだね。

未成年

まだまだ
時間が
かるね。

未
完成

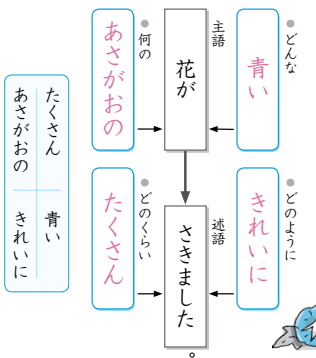
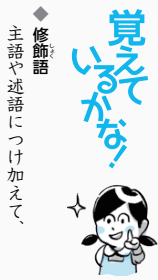
無責任

不十分

思い出そう
「修飾語」

1 〇の修飾語を使って、次の文をくわしくしましょう。

花が きました。



2 修飾語をつけ加えた文にしましょう。

夕日が、しずむ。

例 真つ 赤な 夕日が、 づ

わたしは、笑った。

例 わたしは、一人てく

子犬をなてる。

例 子犬を両手でやさし

名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点 ()

敬語

1 〇の敬語の種類に合うものを、 〇から選んで書きましょう。

お客様がお帰りになる。

この本を差し上げます。

母は、もう来るとしています。

先生に教えていただく。

尊敬語

けんじよう語

ていねい語

けんじよう語



2 〇の漢字を用いて、 〇を漢字と送り仮名で書きましょう。

敬語を使うと、あらたまつた気持ちや

うやまいの気持ちを表すことができます。

改まつた

敬い

各 10 点

3 〇の言葉を、敬語などを用いた文章にしましょう。

先日もらつたふるさとのおみや

げありがとうございます。

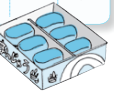
あなたのふるさとの話をしながら、

家族みんなでおいしく食べました。

うちのお父さんとお母さんが、

「あなたのご両親に一度会いたい。」

と言つておりました。



ア (いただきます)

イ (いただきました)

ウ (父と母(両親))

エ (お会いしたい)

オ (申して)



1 〇が、くわしくしている言葉を書きましょう。

わたしは、 静かな 図書館で 勉強した。

弟は、 新しく 自転車を 買つてもらつた。

昨晚から、 はげしく 雪が 降つた。

ア (図書館で)

イ (勉強した)

ウ (買つてもらつた)

エ (自転車(を))

オ (雪(に))

カ (降つた)

2 〇が、くわしくしている言葉に 〇を引きましょう。

・いよいよ ぼくの 出番だ。

・リレーの アンカーとして 必死に 走つた。

・久しぶりに すごく 先生に ほめられた。

・もつと バトンの タッチが うまくできたら 勝てた と思う。



各 10 点



「過ちを改めざる、
是を過ちという」の編

中国の思想家、
孔子先生の論語の
言葉なんだって。

